

たまねぎレポート【第425号】



令和5年3月27日

阪南青果株式会社

社内報

2月の天候は、気温は東・西日本と沖縄・奄美で高かった。東日本の日本海側の降水量は少なく、日照時間は多かった。降雪量は西日本の日本海側でかなり少なく、東日本の日本海側で少なかった。北海道では日本海側とオーツク側の降雪量が多かった。沖縄・奄美の降水量は少なかった。3月は全国的に温暖な天候が続き、桜の開花は1週間程度早く、春の訪れは平年より早い。

気象庁の4～6月の3か月予報では、平均気温は、北・東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美では平年並みまたは高い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

4月、北・東日本の日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様

に晴れの日が多い。

5月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の2月の野菜の販売量は、194,071トン前年比101%(前月比97%)平均単価はkg ¥244前年比98%(前月比100%)。市場別には多少のバラツキがあるが、総じては前年並みで、単価は前年比やや安となっている。大阪本場の前年比12%増、福岡市場の6%減が目进行。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場では販売量は前年比109%、平均単価はkg ¥212前年比92%。東京市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥265前年比100%。名古屋市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg ¥233前年比95%。大阪本場の販売量は前年比112%、平均単価はkg ¥237前年比94%。福岡市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥179前年比101%となっている。

建値市場の2月の玉葱の販売量は24,746トンで前年比114%、(前月比85%)、平均単価はkg ¥124前年比65%(前月比110%)、となっている。北海物主力で、前年比で北海物が増加し、府県物と輸入物が減少している。平均単価は総体的には前年比65%の大幅安だが前月比110%で強含みで推移した。市場別では、札幌市場の販売量は3,527トン前年比119%、平均単価は

kg ¥ 96前年比62%。東京市場の販売量は9,331トン前年比110%、平均単価はkg ¥ 137前年比66%。名古屋市場の販売量は5,588トン前年比106%、平均単価はkg ¥ 118前年比69%。大阪本場の販売量は4,409トン前年比153%で大幅増、平均単価はkg ¥ 123前年比59%。福岡市場の販売量は1,891トン前年比93%、平均単価はkg ¥ 128前年比66%となっている。

日本農業新聞社による主要7地区における、卸の代表7社が販売した2月の主要野菜14品目の販売量の集計値と、平均単価は次の通りである。総販売量は91,177トン前年比5%増、平年(過去5年平均値)比100%。平均単価はkg ¥ 146前年比9%安、平年比1%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ネギ16%増、タマネギが14%増、ジャガイモが13%増、キャベツ・ホウレンソウ・ピーマンが8%増など11品目。販売量が前年比減の品目は、ハクサイが6%減、キュウリが5%減、ニンジンが2%減の3品目。価格が前年比高となった品目はニンジンがkg ¥ 107で37%高、ハクサイがkg ¥ 58で16%高、トマトがkg ¥ 351で8%高、ブロッコリーがkg ¥ 369で6%高など6品目。ホウレンソウ・ピーマンの2品目は前年と同値。前年比安の品目は、ジャガイモがkg ¥ 125で前年比41%安、タマネギがkg ¥ 109で35%安、ネギがkg ¥ 261で13%安、ダイコンがkg ¥ 80で10%安、結球レタスがkg ¥ 199で8%安、キャベツがkg ¥ 80で6%安など6品目、ホウレンソウ・ピーマンの2品目は前年と同値となっている。

東京都中央卸売市場の2月の野菜の入荷量は、104,193トン前年比99%(前月比94%)。平均単価はkg ¥ 265前年比100%(前月比102%)。旬別では上旬がkg ¥ 263で前年比104%、中旬がkg ¥ 267で前年比99%、下旬がkg ¥ 265で前年比99%、となっている。

主要15品目で入荷が前年比増の品目は、ホウレンソウ・ネギが前年比11

1%。タマネギ・バレイショ・レタスが110%、ピーマンが102%、ナスが101%など7品目。入荷が前年比減の品目は、ナマシイタケが前年比84%、ハクサイが89%。サトイモが93%。キャベツが96%、キュウリ・トマトが98%、ダイコンが99%、など7品目。前年と同等がニンジン1品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg ¥ 124で前年比135%、ハクサイがkg ¥ 63で前年比122%、サトイモがkg ¥ 323で前年比112%、ナマシイタケがkg ¥ 1089で前年比111%、トマトがkg ¥ 400で109%、キュウリがkg ¥ 449で108%、ピーマンがkg ¥ 829で106%、ナスがkg ¥ 484で102%など8品目。前年比安の品目は、バレイショがkg ¥ 152で前年比60%、タマネギがkg ¥ 137で66%、ネギがkg ¥ 253で85%、レタスがkg ¥ 261で90%、キャベツがkg ¥ 95で94%、ダイコンがkg ¥ 101で94%、ハウレンソウがkg ¥ 502で97%など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の2月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	104,192	98.9	94.1	265	100.4	101.9
た ま ね ぎ	9,331	110.2	107.0	137	66.0	107.9
キャベツ	14,417	96.0	106.3	95	93.9	96.9
はくさい	11,189	89.3	85.5	63	122.0	118.9
だいこん	8,680	99.2	84.4	101	94.3	102.0
にんじん	5,954	100.0	90.2	126	134.6	109.6
ばれいしょ	6,958	109.7	100.7	152	60.4	111.9
レタス	5,959	109.6	91.7	261	89.7	98.9

ね　　ぎ	4,440	110.6	81.0	253	84.6	95.8
ト　マ　ト	4,487	97.6	88.6	400	108.7	114.0
き　ゆ　う　り	4,094	97.8	98.6	449	107.6	88.2
か　ぼ　ち　ゃ	911	48.1	75.8	485	262.8	144.8
な　が　い　も	618	81.7	107.5	368	136.2	104.8
れ　ん　こ　ん	937	162.2	100.5	349	53.4	119.5
に　ん　に　く	239	109.1	119.5	834	77.5	98.8

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の2月の玉葱の入荷販売量は9,331トン前年比110%(前月比107%)。主力は北海物で入荷量は7,671トン前年比120%、占有率は82%で前年比7ポイントアップ。静岡物は1,369トン前年比99%、占有率15%前年比1ポイントダウン。中国物は124トン前年比28%、占有率1%前年比4ポイントダウン。長崎物は91トン前年比75%。総平均単価はkg ¥137前年比66%(前月比108%)。産地別単価は、北海物はkg ¥116前年比59%、静岡物はkg ¥240前年比86%。中国物はkg ¥148前年比130%。長崎物はkg ¥242前年比79%となっている。

3月に入って、北海物のお荷は減少傾向となったものの、それ以上に荷動きが鈍く、特にL大の市場在庫が増加した。3月は年度末となるので、日々完売に努めているが、思う様に捌けていない。府県の新物は生育が遅れ、長崎・佐賀・愛知の3月のお荷は前年比大幅減となり、北海物主力の販売となっているが、販売環境は厳しい。月末となった昨今も新物のお荷は予想よりも少なく、荷動

きは今ひとつである。佐賀の中心産地白石地区の球流れは下等級品が多く、品質は平年に比べ見劣りする。終盤の北海物の球流れは、L大の比率が高く荷動きの鈍化が続いている。

3月1日～20日の玉葱の販売量は6,507トン前年比111%、北海物、静岡物は前年比2桁増となったものの、後続産地は軒並みに前年を大きく下回っている。総平均単価はkg¥136前年比59%。産地別では、北海物の販売量は4,744トン前年比119%、平均単価はkg¥114前年比53%。静岡物は1,226トン前年比128%、平均単価はkg¥202前年比70%。長崎物は195トン前年比85%、平均単価はkg¥181前年比63%。佐賀物は174トン前年比88%平均単価はkg¥194前年比66%となっている。九州産は1月末の強風雪と、2月の低温で府県の早生物の生育が停滞したが、3月からは温暖な気候で回復歩調となったものの日照不足で生育は今も後ズレしている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の2月の玉葱販売量は5,588トン前年比106%（前月比108%）で前年比、前月比ともに増となっている。主力は北海物で、前月に続き北海物主導の販売となっている。北海物は4,985トン前年比110%、占有率は89%で前年比3%アップ。静岡物は512トン前年比84%、占有率9%で前年比3ポイントダウン。愛知物は59トン前年比101%。総平均単価はkg¥118前年比69%（前月比104%）。産地別の平均単価は、北海物はkg¥103前年比68%。静岡物はkg¥241前年比83%。愛知物はkg¥233前年比82%となっている。

3月に入ってから、北海物の入荷は順調で、府県の早生は出遅れている。北海物は産地の希望値を大きく下回らないよう勉売しているが、荷動きが鈍化し在庫が増えている。静岡物も荷動きは今ひとつで、値下げ販売をしたいが産

地が強気で値下げ販売を認めて呉れない。月後半からは地物の入荷が徐々に増加し、相場も軟化すると見ている。昨今、新物は地場産地の碧南地区の入荷が始まったことで、入荷増傾向となった。L中心の球流れで品質的にはまずまずの状態である。九州産の入荷がなく仕切値は¥1,800と高い。北海物は荷動き鈍く、¥2,000を維持するのは至難の環境になっている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の2月の玉葱の販売量は4,409トン前年比153%(前月比107%)で前年比大幅増、前月比増となっている。他市場に比べ大幅に増加している。特に、北海物が前年比175%で前月に続き激増している。産地別の販売量は、北海物が3,628トン前年比175%、占有率82%で前年比10ポイントアップ。兵庫物は351トン前年比93%、占有率は8%で前年比6%ダウン。静岡物は314トン前年比118%、占有率7%で前年比2ポイントダウン。長崎物は76トン前年比63%。占有率2%前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg¥123前年比59%(前月比104%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥106で前年比58%、兵庫物はkg¥161前年比65%。静岡物はkg¥254前年比85%。長崎物はkg¥197前年比65%となっている。

3月に入って、兵庫の冷蔵物は終盤を迎え入荷の減少で、こだわり筋の引き合いが強まったが、銘柄によっては品質劣化が目立つ様になった。他方、少量ながら極早生の新物の入荷が始まった。主力の北海物の荷動きに活気がなくなった。静岡物は終盤となり入荷が減少し、生育が遅れていた長崎物の入荷が増加傾向となった。昨今では、兵庫の新物の入荷が増加傾向にあるが、末端小売店の売行きは伸び悩んでいる。長崎物も荷動き鈍く中値以下の販売が多く軟調である。北海物はL大の比率が高く、荷動きは鈍化傾向だが、産地の希望値の高止まりで苦しい販売が続いている。

3月1日～20日の玉葱の販売量は2,783トン前年比154%、平均単価はkg¥123前年比54%。産地別では、北海物は2,102トン前年比192%、平均単価はkg¥106前年比53%。長崎物は257トン前年比83%、平均単価はkg163前年比56%。静岡物は177トン前年比175%、平均単価はkg¥203前年比70%、兵庫物は173トン前年比116%、平均単価はkg¥178前年比65%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の2月の玉葱販売量は、1,891トン前年比93%(前月比109%)で、前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は1,582トン前年比115%、占有率84%前年比16ポイントアップ。長崎物は141トン前年比58%、占有率7%前年比5ポイントダウン。中国物は99トン前年比30%、占有率5%前年比11ポイントダウン。総平均単価はkg¥128前年比66%(前月比107%)で前年比安、前月比高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥116前年比59%。長崎物はkg¥227前年比80%。中国物はkg¥128前年比127%。となっている。

3月に入って、近県の長崎・佐賀物の入荷が増加傾向となったが、数量は予想外に少なく、希望値が高くて売り辛かった。月前半は北海物70%、長崎・佐賀物30%の販売であった。相場は価格維持に努力したものの、荷動きは今ひとつで、北海物もそれなりの在庫を抱えての販売となった。月後半には新物の入荷が日毎に増えるため、販売環境は厳しくなる。昨今の天候は雨天曇天が多く、新玉の入荷は少なめだが、荷動きは今ひとつで相場は軟調である。仲卸・小売り店とも高値疲れで、売れ行きは伸びていない。早生産地の長崎・佐賀とも産地の希望値が高く苦労している。北海物も荷動き鈍化で市場在庫は増加傾向で、安値処分も多くなっている。4月になれば心機一転し売行きが好転

することを願っている。

3月1日～20日の玉葱販売量は1,458トンで前年比98%、平均単価はkg¥127で前年比57%。入荷量は前年比2%減、価格は前年比43%安となっている。

3月25日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量235トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,100～1,700、L大 ¥2,200～1,800、L ¥2,200～1,700、
M ¥1,800～1,500。

長 崎 10kgDB2L ¥1,700～1,600、L ¥1,900～1,800、M ¥1,800～1,600。

【太田市場】 販売量210トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,200～2,000、L ¥2,200～2,000、
M ¥2,000～1,800。

静 岡 10kgDB2L ¥1,600～1,500、L ¥2,000～1,800、M ¥1,800～1,600。

長 崎 10kgDB2L ¥1,500～1,300、L ¥1,600～1,400、M ¥1,300～1,100。

佐 賀 10kgDB2L ¥1,500～1,300、L ¥1,800～1,400、M ¥1,600～1,200。

愛 知 10kgDB2L ¥1,400～1,300、L ¥1,700～1,600、M ¥1,500～1,400。

【名古屋北部市場】 販売量90トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,100～2,000、L大 ¥2,200～2,000、L ¥2,200～2,100、
M ¥2,100～2,000。

静 岡 10kgDB2L ¥1,600～1,500、L ¥2,000～1,800、M ¥1,800～1,600。

愛 知 10kgDB2L ¥1,500～1,300、L ¥1,800～1,600、M ¥1,500～1,300。

【大阪本場】 販売量259トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,800、L大 ¥2,100～1,900、L ¥2,200～2,000、

M ¥ 2,000~1,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 1,700~1,500、 L ¥ 1,700~1,500、 M ¥ 1,500~1,300。

静 岡 10kgDB2L ¥ 1,600~1,500、 L ¥ 2,000~1,800、 M ¥ 1,800~1,600。

長 崎 10kgDB2L ¥ 1,200~1,000、 L ¥ 1,600~1,300、 M ¥ 1,200~1,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 1,300~1,100、 L ¥ 1,600~1,400、 M ¥ 1,300~1,100。

大 阪 10kgDB2L ¥ 1,400~1,300、 L ¥ 1,500~1,300、 M ¥ 1,300~1,200。

【福岡市場】 販売量282トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥ 2,300~2,200、 L大 ¥ 2,400~2,000、 L ¥ 2,300~2,000、

M ¥ 2,200~2,000。

長 崎 10kgDB2L ¥ 1,400~1,200、 L ¥ 1,800~1,400、 M ¥ 1,800~1,400。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 1,400~1,200、 L ¥ 1,800~1,500、 M ¥ 1,800~1,500。

供給(産地)の動き

3月は、北海物は終盤期に入り、静岡に続く府県の早生物は初盤期となる。北海産では、ホクレンの1~2月の出荷が計画を上回り、3~4月の出荷は計画比かなりの減少となる。と報告されている。府県の極早生の生育遅れと、ニュージーランドなどの輸入物の激減で、2~3月の北海物は有利販売が続いた。府県産の3~4月の主産地の長崎、佐賀では1月末~2月の強風雪害や寒波に見舞われ、廃耕になった圃場を始め、総じて生育遅れが目立っている。3月は温暖な天候に恵まれ、生産者の懸命の防除が効を奏し、予想外の回復となったものの、収穫・出荷は1週間~1旬遅れている。

府県産地

長崎、3月14日に産地を訪問して作況を見学したが、既に加津佐地区では収穫進捗率が40%前後に達しており、かなりの圃場格差が見受けられた。作

柄は平年作を下回ると予想した。千々石地区では収穫中の生産者が散見されたが、葉鞘の緑が濃く回復は順調で多少増反となっていると見受けた。従来産地の長田(諫早)地区は、強風雪の被害が大きく、廃耕になった圃場が散見されたが、被害にめげず防除と再生に取り組んだと思われる圃場も多く、完全に蘇生し、4月半ばには通常通りの出荷が可能と見受けた。

佐賀、3月13日に中心産地の白石地区の作況を見学したが、圃場格差が大きく、干拓地を一望すると、ところどころに葉鞘の色褪せた圃場が斑点模様を描いていた。理由は定かでないが、昨今の肥料高で投入量を控えたいと聞いた。所謂肥料切れで、草勢が弱く収量は期待出来そうにない圃場が点在する。既に、収穫を始めている生産者もあり、球肥大が良く、反収は前年を上回るとの話。新品種だと言うが、首が太く締りのないのが難点である。亦、増収を計り通常の4条植えを5条植えにしている生産者もあり、増収に腐心している姿に熱意を感じた。総体的な作柄は、今後の天候に左右されるが、現状では平年作と予想した。JAの調査では白石地区の作付面積は982ha前年比108%、反収4トンを収穫量39,280トン前年比130%を見込んでいる。

兵庫、今年度産の作付予想面積(種子販売量で試算)は1,291ha前年比108%。品種別では早生種313ha占有率24%(前年20%)、中生種805ha占有率62%(前年65%)、晩生種165ha占有率13%(前年14%)、赤玉8ha。と報告されている。主産地の南あわじ市では、耕地整理が一段落し玉葱の栽培意欲が向上している。一部極早生種の栽培があり、少量ながら3月中旬から出荷が始まっている。中晩生の生育は、定植後の干ばつ傾向と低温で遅れていたものの、3月には回復基調となり、昨今では葉鞘の緑が一段と濃く成り、順調に回復している。通常、4月初旬の強風被害に遭うことが多く、作柄の確定は4月中旬になる。

北海道産地

北海物の出荷は終盤となり、出荷団体では現在の産地在庫は、計画をかなり下回る。と話している。ホクレンでは、3月出荷は計画比2,700トン減、4月は計画比900トン減になると言う。現時点の北海物の産地在庫は予想外に少なく、切り上がりが予想より早いとの見方が大勢を占めている。有終の美を求めて産地側では市場荷受けに向けて販売価格維持の要請を強めているが、末端の小売店では、春商材の新玉に関心が移行し、価格維持は厳しくなっている。ホクレンの今年産の作付動向調査では、作付面積は12,427ha前年比65ha減で。早生系と晩生系が減反、中生系が増反となっている。

輸入の動き

2月の輸入量は速報値で、17,009トン前年比79%。国別では、主力の中国が16,655トン前年比87%。タイが188トン前年比46%。アメリカが164トン前年比20%。となっている。

中国、産地は甘粛省から雲南省に移行。此の先主力は雲南省産になる。雲南省は作付増と生育順調で出荷は前進化傾向にある。需要動向は、韓国向けが激減したものの、欧州からの引き合いが増加傾向にあるものの、此の先収量増が期待されることから、現地価格は値下り傾向になると予想されている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉が\$9.60。皮付きが\$8.00で、前月比で値下りしている。

ニュージーランド、作付面積は前年比94.6%で、播種後の天候不順(多雨)に見舞われ収量減が懸念されていたことに加え、2月中旬の大型台風の被害で、減収・品質不良品の続出で、日本向けの契約は厳しさを増している。現在のオファー価格は、20kg・C&F・黄玉は¥2,600~2,500。赤玉は¥3,000。

4月の市況見通し

4月の出回りは、府県の早生物が主力となるが、主力産地の長崎・佐賀・兵庫とも、早生系の作付は増反傾向にあるが、生育遅れに加え天候不順で作柄は平年作が精々の現況である。北海物は4月の出荷は多くないし、輸入も減少傾向にあり、需給バランスは平年よりも品薄になる可能性が高い。他野菜の市況にも影響されるが、4月の玉葱市況は前年の様な高値は期待出来ないものの、平年比高になると見ている。小生の私見であるが、府県の早生物の中心相場はL・10kg ¥1,500～1,250。と予想している。（笹野敏和記）